



THE ROTARY CLUB OF PORT NAGOYA

Weekly Report

名古屋みなと

2020~2021

承認 1966年 5月12日 例会日 金曜日 12:30
 例会場 名古屋マリオットアソシアホテル
 事務局 TEL 052-221-7020 FAX 052-221-7023
 E-Mail office@portnagoya-rc.com
 URL http://www.portnagoya-rc.com
 会長 高田 和裕 幹事 村田 誠一
 広報・雑誌・会報委員長 久留宮 秀郎

ROTARY OPENS OPPORTUNITIES.

ロータリーは機会の扉を開く

R.I. 会長 ホルガー・クナーク



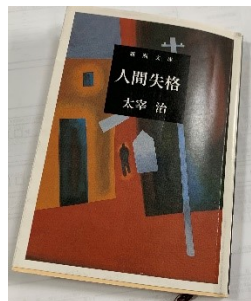
臨時増刊号 3号

2021年(令和3年)1月22日(金)

会長挨拶



「恥の多い生涯を送ってきました。」皆さん、ご存じの太宰治 人間失格 第一の手記の冒頭文です。人間失格を久しぶりに手にして私のロータリーの会長ライフの半年を照らしてみようと、ウィークリーの私の会長挨拶を読み返しました。高田私小説劇場みたいで「恥の多い半年を過ごしてきました。」ナルシズムと自意識と皆を欺いている罪の意識。人間失格の一小節にこんなのが、あったとおもいます。「自分が面白い事して、道化のふりをすると、皆はおもしろいやつだと言う自分が本当に苦しんでいる時、皆は苦し



んでいる振りをしてると自分の事を言う」学生時代に太宰治に、私は傾倒していました。こんな事が書かれていた気がします。さて、またコロナのカオスののなか、例会を休んでしまいました。この日のために準備してくれたメンバー他には本当に申し訳ないと思います。すみません。正月の番組でこんなのがありました。「左手一本のシュート」。

ノンフィクションライター島沢優子著 小学館文庫

主人公は、バスケットボールの選手でした。突然、脳出血になり右半身麻痺になります。厳しいリハビリを経てコートに復活。そのリハビリ中に先生がかけた言葉。

「いつか」「やがて」「きっと」
 今、私達もコロナ禍の中
 「いつか」「やがて」「きっと」
 でみんなで耐えていきましょう。



例会担当者は、いつできるかわからないこの時期、いつでも出来るように準備します。

最後に一冊の本を紹介させていただきます。

フォレスト出版 中山和義 著

24の物語シリーズの中から「人生の目的に気づく」のなかより「目的は一人で達成するものでない。」自衛隊の研修に行った時、最初に時間の大切さに教官に言われた。そして、翌日 2分ほど遅れたメンバーがいた。全体責任で全員、腕立て伏せ1,200回 皆は、遅れたメンバーに恨めしそうに見る。教官は言う「一番悪い奴は誰だったと思う」皆は遅れて来たメンバーを見る。すると、教官は言う。

「まだ、わからないようだ。一番悪い奴は、最初に来たやつだ。最初に来た人間は遅れている人を助けることができたはずだ。お前らは、仲間だ。仲間をたすけようとしなから、結局は自分も辛い思いをするんだ。一人の力では限界がある。目的は一人で達成するものでない。みんなで達成をするんだ。」

例会は2月5日まで休みです。その翌週は振替休日です。今度、皆さんとお会いできるのは早くも2月19日です。正式な再開は事務局から連絡が行きます。私の好きな言葉に「一蓮托生」という言葉があります。早い例会復活を祈念して
 臨時増刊号3号 会長挨拶とします。



皆さんこんにちは、コロナ禍の中、元気にお過ごしかと思います。さて今回は国際奉仕の事業、フィリピン国パンダノン島の奉仕事業を覚えていきますでしょうか。本来なら昨年11月に会員の皆さんで現地に行って奉仕活動をする予定でしたが叶いませんでした。

そこでセブ島にあります国際協力団体 go share の三浦さんをお願いして事業自体は継続しております。今回三浦さんから当ロータリークラブの奉仕事業を聞いた中日新聞社の編集局教育報道部の記者から取材を受けました。



1月22日マリオットホテルにて高田会長・野崎国際委員長・久留宮広報委員長と村田にて対応。パンダノン島の小学校へ校舎の新築・ピアノの贈呈・音楽会開催の説明をしました。場所の選定のから始まり、なぜピアノなのかを写真を交えて説明しました。さらに島の人たちの暮らしや交流したことを話しました。



高田会長と親子ほど年の離れた記者に気をよくしたメンバーは2時間に渡って熱弁を奮ったのでした。本事業の報告は野崎国際委員長の卓話にて後日報告致します。また中日新聞の掲載が決まりましたら皆さんにお知らせ致しますので楽しみにお待ちください。





昨年1月に新種のウイルスが中国から世界的に感染が拡大し、2月の終わり頃からR Cの運営全てが大混乱に見舞われてから早や1年、再々度の緊急事態宣言が出て、今年の執行部の皆様のご苦労に感謝と敬意を表します。「新しい生活様式」が定着し、いままでの

生活や環境が一変したいま、外出やレジャーもままならず、行動に大きな制約が課せられている中、どうしても家に籠もるとストレスが溜まります。そこで、その肉体的・精神的負荷を解消すべく、工夫した商品やサービスが次々に出てきました。「巣ごもり需要」「おうち時間」という言葉ができるほど、生活態様が変わっていく中で、私共が扱っている「お菓子」は、古来より人々の嗜好品＝「癒しの素」としての機能を果たしてきました。ここでその成り立ちや奥深い世界のほんの一端をご紹介したいと思います。他国のことは知りませんが(笑)、日本では木の実や果実のことを「くだもの」と呼び、漢字が伝わると「果子」「菓子(植物が原料なので草冠がついた)」と表記されるようになったのが言葉の始まりとされ、中国から穀物を粉にする製法が最初に伝わり、室町時代になると茶道の発展に伴って、料理と料理の間に食べる小皿料理である「点心(てんじん)」の一種として日本に入りました。茶道を司る禅僧達は肉が食べられませんでしたので、小麦や小豆など植物由来の材料を使った料理が編み出され、そこに砂糖を入れた「甘い和菓子」の誕生となっていきます。江戸の鎖国期には、オランダから金平糖やカステラなどが伝わり、明治時代になるとクッキー・チョコレートやビスケットなど、手作りで繊細な作り方をするフランス菓子、産業革命期には機械で大量製造できるbaumkuehenなどの焼菓子も盛んに作られるようになり、洋菓子文化が花開きました。ところで、お菓子の種類に「生菓子・半生菓子・干菓子」という呼び方がありますが、これらはすべて含まれる水分量で区分されています。生は完成時点で40%以上(一部原料により30%以上)、半生は10%以上40%未満、干は10%未満、となります。この地方で有名なのは「えびせんべい」で、愛知県が日本の90%以上のシェアがありますが、製品全体の原料のうち海老が5%以上含まれていれば「えびせん」と呼んでよい、という説もあるぐらい(笑)、たくさんの種類が売られている愛知の名物です。日頃から意識していることですが、私が考えているお菓子の定義とは、「①素材そのものより日保ちがするものであること」「②素材そのものとは違った食べ方ができるもの」です。栄養や成分もたしかに大切なのですが、お菓子に必要なのは「季節感」と「イメージ」だと考えています。

たとえば、栗の実茶色の皮に乳白色の中身ですが、なぜか「黄色」のイメージがあり、桃やブドウも果実の色ではなく外観色が製品に付いていた方が売れたりしますから、見た目も非常に大切だということですね(笑)。最近では食品添加物が悪の権化のように言われてはいますが、それらをうまく利用しながら、作り手の気合いと知恵と壮絶な試行錯誤の結晶が、低添加で日保ちするお菓子が日本中で楽しめるようになった、世界に誇れる「文化」の一つだという気がします。自由に出かけられないいましばらくの間は「おうち時間」が増えると思いますが、好きな飲物を用意の上、気に入った本や映画でも観ながら、少しでも快適に、ホッと一息できる時間をもたらしてくれるものが「お菓子」であって欲しいと願いつつ、カロリーなど考えず、つい摘まんでしまうのです…(笑)

月	日	今後の例会予定
1	22	休会
	29	休会
2	5	休会
	12	休会
	19	卓話「フィリピン国際奉仕報告」 国際奉仕委員長 野崎 修君 16F「アゼリア」
	26	卓話 早瀬 謙行君 17F「コスモス」
3	5	卓話「「コロナ」と「災害」～合言葉は「命・支え合い・自ら動く」～」 名古屋市港防災センター 防災教育アドバイザー 近藤 ひろ子様 17F「コスモス」
	12	卓話 名古屋中央ロータリーアクトクラブ 幹事 都築 瑠衣さん 17F「コスモス」
	19	休会
	26	卓話 NPO 法人ファミリーユ理事長 熊崎 純子様 17F「コスモス」